

環境経営レポート 2023

（対象期間：2023年4月～2024年3月）

発行日：2024年6月30日



®環境省

エコアクション21

認証番号0013444

 株式会社 ジオレ・ジャパン



資源に変わるチカラ、自然に還すチカラ。

大栄環境グループ

1	組織概要	1	7	環境経営目標とその実績	18
2	許認可取得状況	3	8	環境経営活動計画の取組み 結果とその評価	22
3	事業紹介	5	9	ジオレ・ジャパンの取組み	33
4	EA21組織図	15	10	大栄環境グループの取組み	37
5	環境経営方針	16	11	代表者による全体評価と 見直し結果	40
6	環境関連法規の遵守状況	17			

会社概要

事業所名 株式会社 ジオレ・ジャパン

所在地 兵庫県尼崎市東浜町1-1

連絡先 TEL 06-6411-3690
FAX 06-6411-3225

創立年月日 平成15年10月1日

代表者 代表取締役 柴垣 雄一

資本金 1億円

従業員数 53名（男性：40名 女性：13名）

環境管理責任者 島原 直樹

EA事務局

連城 博記
中西 智愛

対象事業所

- ・本社工場
- ・末広工場

事業内容

- ・汚染土壌の浄化及び浄化土の販売
- ・土壌汚染に関する総合コンサルティング
- ・汚染土壌に係る工事
- ・低濃度PCB廃油の無害化处理
- ・産業廃棄物の収集運搬業
（収集運搬の実績は現状なし）

2024年3月31日現在

汚染土壌搬入量の推移

項目	単位	2021年	2022年	2023年
汚染土壌 処理量	t	330,527	346,634	253,912
浄化土 販売量	t	127,113	157,708	170,234
売上高	百万円	3,361	3,716	3,231
従業員数 ※ 各年3月31日時点	人	49	52	53

取得許認可

本社工場

- ・汚染土壌処理業許可
（浄化等処理施設〈浄化〉〈不溶化〉、分別等処理施設）
許可番号：第13110010001号
- ・指定調査機関 環2004-5-2002（土壌汚染対策法）
- ・建設業 国土交通大臣 許可（特-3）第23536号
- ・低濃度PCB無害化処理大臣認定 2013年 第5号
- ・産業廃棄物収集運搬業、特別管理産業廃棄物収集運搬業（詳細は次頁）

汚染土壌施設の種類		処理能力	
1	浄化等処理施設（浄化（抽出-洗浄処理））	23t/h	552t/d(24h)
2	浄化等処理施設（浄化（抽出-化学脱着））	160t/h	1,280t/d(8h)
3	浄化等処理施設（浄化（分解-熱分解））	4.6t/h	110t/d(24h)
4	浄化等処理施設（浄化（抽出-磁力選別））	105t/h	2,520t/d(24h)
5	分別等処理施設（不溶化）	105t/h	2,520t/d(24h)
6	分別等処理施設（異物除去）	105t/h	2,520t/d(24h)
7	分別等処理施設（含水率調整）	105t/h	2,520t/d(24h)

末広工場

- ・汚染土壌処理業許可（分別等処理施設）
許可番号：第13100010006号

汚染土壌施設の種類		処理能力	
1	分別等処理施設（異物除去）	240t/h	1,920t/d(8h)
2	分別等処理施設（含水率調整）	240t/h	1,920t/d(8h)

2.許認可取得状況

取得許認可

・産業廃棄物収集運搬業

※活動期間中（2023年4月～2024年3月末）
収集運搬の実績はありませんでした。

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類															
					燃え殻	汚泥	廃プラスチック	木くず	紙くず	繊維くず	ゴムくず	ガラス・コンクリート・陶器くず	がれき類	廃油	廃酸	廃アルカリ	金属くず	動植物性残さ	銕さい	ばいじん
尼崎市	第7112-212355号	令和2年6月29日	令和7年6月28日	有	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
兵庫県	第02805212355号	令和1年12月9日	令和6年12月8日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
大阪府	第02700212355号	令和1年12月17日	令和6年12月16日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
三重県	第02400212355号	令和2年2月25日	令和7年2月24日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○
和歌山県	第03000212355号	令和2年2月19日	令和7年2月18日	無	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○		○	○

・特別管理産業廃棄物収集運搬業

許可区域	許可番号	許可年月日	許可有効年月日	積替保管	廃棄物の種類				
					燃え殻	汚泥	廃油	銲さい	ばいじん
尼崎市	第7162-212355号	令和2年6月29日	令和7年6月28日	有	○	○	○	○	○

- 運搬車両
ダンプトラック：2台
キャブオーバー：1台
- 積替保管施設
面積：19.52㎡
保管上限量：23.42㎡
- 産廃
面積：36.69㎡
保管上限量：110.07㎡
- 特管

汚染土壌問題のトータルソリューション

土壌汚染に関する調査・コンサルティング事業（調査・分析・評価・対策のご提案）、浄化事業、浄化土販売事業により、お客様のニーズに対応した最適なソリューションを提供しています。

1 コンサルティング

調査計画

現地調査

分析

評価

対策実施計画

- ・「GIS（地理情報システム）を用いた地歴調査システム」を活用した迅速な地歴調査
- ・環境保全や土木技術に関する知識経験を有する技術者による最適ソリューションの提供



2 土壌処理

原位置対策

原位置封じ込め/原位置浄化

原位置浄化工法

◎バイオレメディエーション ◎科学的処理（酸化・還元分解等）
◎ガス吸引、揚水曝気 ◎空気注入 ◎原位置土壌攪拌（フェントン法 等）

敷地外対策

独自開発の浄化方法 / 大規模なストックヤード

分 別

埋立処理 / セメント原料化



3 再利用

浄化土を埋戻し材や地盤改良材等として販売し、土壌の再利用を推進

3.事業紹介

汚染土壌処理 施設レイアウト



- ① 事務所棟
- ② 計量設備
- ③ 前処理棟
- ④ 熱処理設備
- ⑤ 洗浄処理棟
- ⑥ 浄化土置場
- ⑦ 第二処理棟
- ⑧ 専用バス

3.事業紹介

汚染土壌処理 処理フロー

汚染土壌



砂質系



粘質系

浄化



・熱分解処理



・洗浄処理



・乾式磁力選別



・化学脱着

分別



・不溶化处理



・異物除去

・含水率調整

再資源化



浄化済み土壌（全量販売）

適正処理



埋立処理



セメント原料化

3.事業紹介

汚染土壌処理 熱処理設備

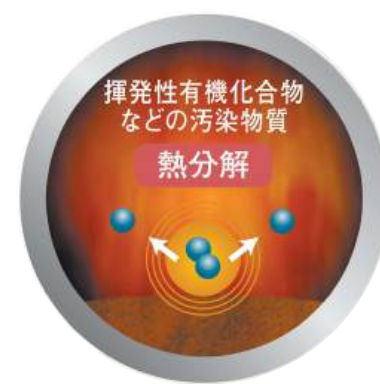
高温熱処理することで、ほとんどの汚染土壌を浄化できます。

汚染物質はロータリーキルンにて約1,000℃の高温で熱処理されます。この工程で分離された重金属類は排ガス処理設備にて確実に回収し、廃棄物として処分します。

また、揮発性有機化合物等は熱分解されます。



ロータリーキルン・内部の汚染土壌の様子



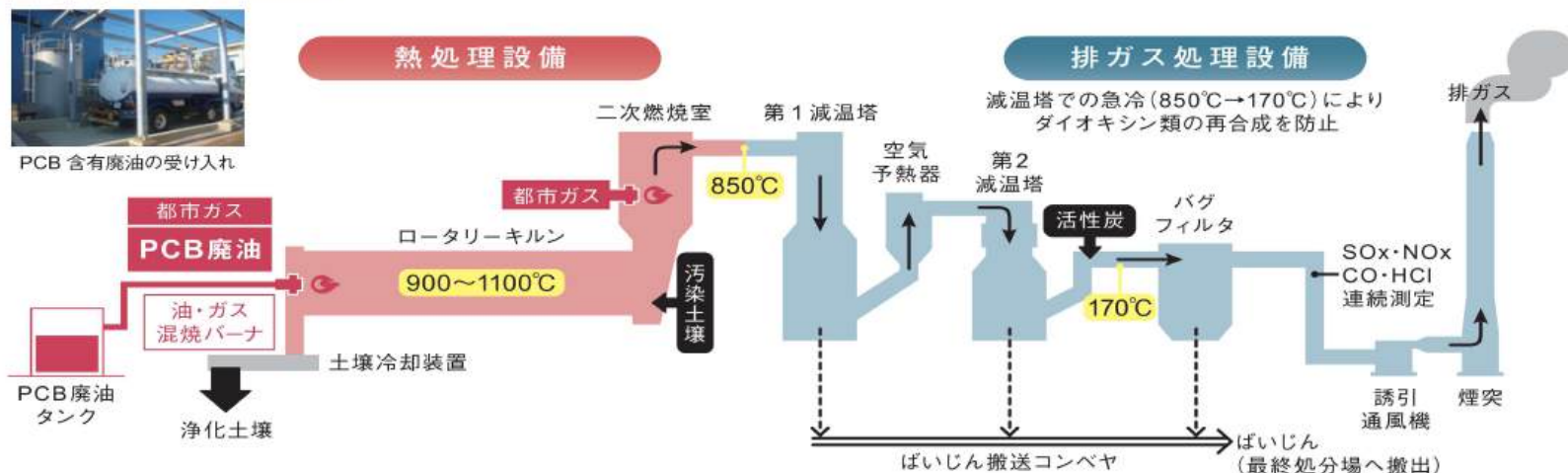
3.事業紹介

汚染土壌及びPCB廃油処理 PCB無害化

高温熱処理設備により、
PCB汚染土壌を浄化
します。

PCB 無害化のしくみ

二次燃焼室において、燃焼温度 850℃以上、排ガス滞留時間 2 秒以上を確保し、PCB を確実に分解します。

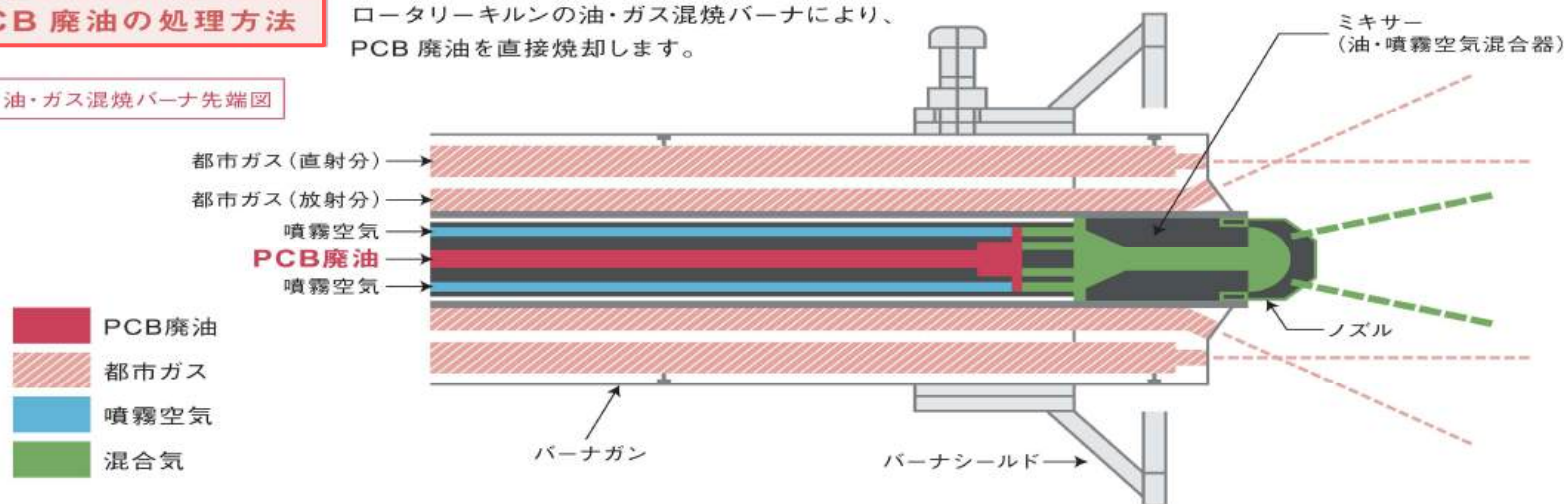


PCB 廃油の処理方法

ロータリーキルンの油・ガス混焼バーナにより、
PCB 廃油を直接焼却します。

油・ガス混焼バーナ先端図

さらに低濃度PCB廃油
の無害化も同時に実施
します。



3.事業紹介

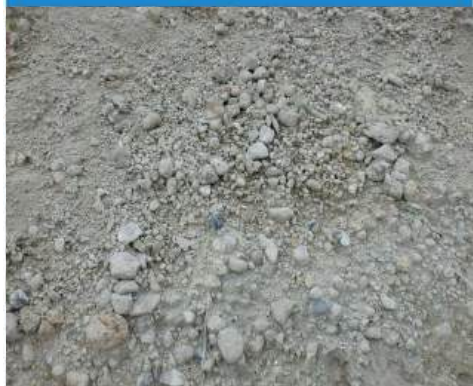
汚染土壌処理 洗浄処理

摩擦や水流によりレキや砂の表面から汚染物質をはぎ取ります。

磨鉱機や土壌分級機を用いた多段階の水洗浄により、汚染物質を細粒土とともにレキや砂粒から確実に取り去ります。
洗浄に用いた水は水処理を行い洗浄施設にて循環利用します。



洗浄前



SEMによる
(電子顕微鏡)
洗浄効果
確認

汚染物質が存在する
細粒分を確実に除去



洗浄後



3.事業紹介

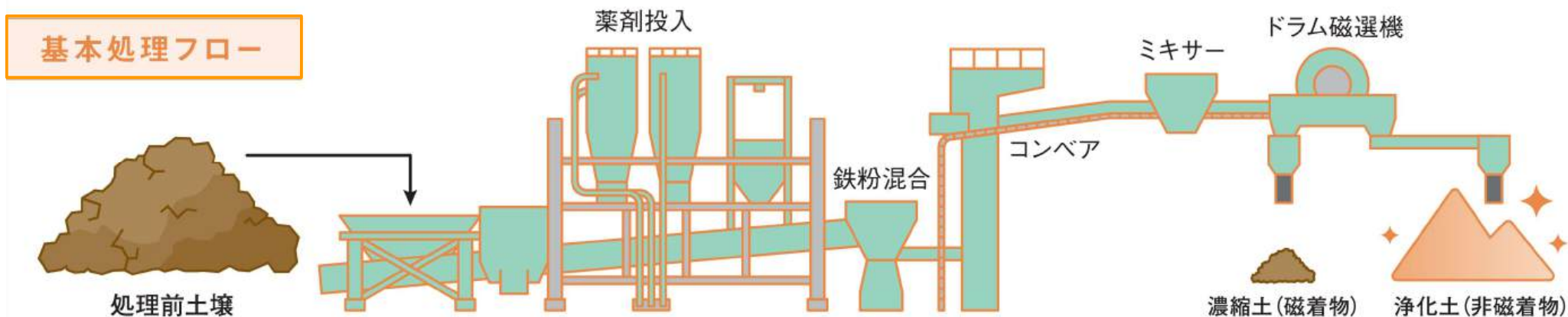
汚染土壌処理

DME処理（乾式磁力選別処理）

自然的原因の汚染土壌等を水を用いずに磁力選別にて浄化します。

鉄粉に砒素や鉛などの重金属類を吸着させる性質があることを利用し、重金属含有土壌に鉄粉を混合して重金属類を吸着させた後、磁力を用いて鉄粉および重金属イオン等を分離除去します。

DME工法の最大の特徴は、処理プロセスにおいて水をほとんど使用しないため、排水処理が不要となることです。



3.事業紹介

汚染土壌処理 その他の処理

- 埋立処理

関西圏を中心に4力所の汚染土壌処理業許可を有する大栄環境グループの最終処分場にて埋立処理が可能です。

低濃度（第二溶出量基準以下）の汚染土壌処理に有効です。廃棄物の埋立処理で培ったノウハウを生かし、安心と安全を提案します。

- 不溶化处理

薬剤などにより、第二種特定有害物質の汚染土壌からの溶出量を低減する処理方法です。処理後の土壌は再処理汚染土壌処理施設へ搬出しなければなりません。

- 化学脱着

汚染土壌に薬剤（生石灰等）を混合し、水との水和熱で土壌温度を上昇させ、第一種特定有害物質を土壌から揮発させて除去する方法です。



3.事業紹介

汚染土壌処理 その他の処理

・分別等処理

再処理汚染土壌処理施設への受け入れが可能となるよう異物除去等の処理を行います。

◎異物除去

岩、コンクリートガラ等の異物を除去します。

◎含水率調整

中性固化材や生石灰等を混合し、汚染土壌の含水率を調整します。

・セメント原料化

セメントの主原料は石灰石ですが、それ以外の成分として粘土や石炭灰等も相当量使用されています。セメント原料としての基準（塩分・アルカリ量等）を満たした低濃度の汚染土壌も積極的に活用されています。



2023年8月31日 末広工場に専用バース完成

浄化土の活用

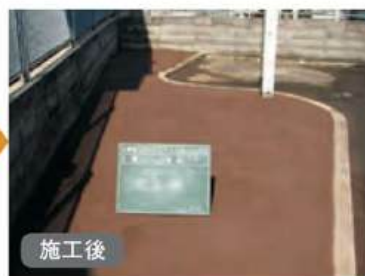
・浄化土の品質管理

浄化土は汚染土壌を浄化プラントにて適正処理し、土壌汚染対策法および関連ガイドラインに基づいた頻度や項目で試料を採取し、第三者の計量証明機関において公定法により、汚染のないことを確認しています。



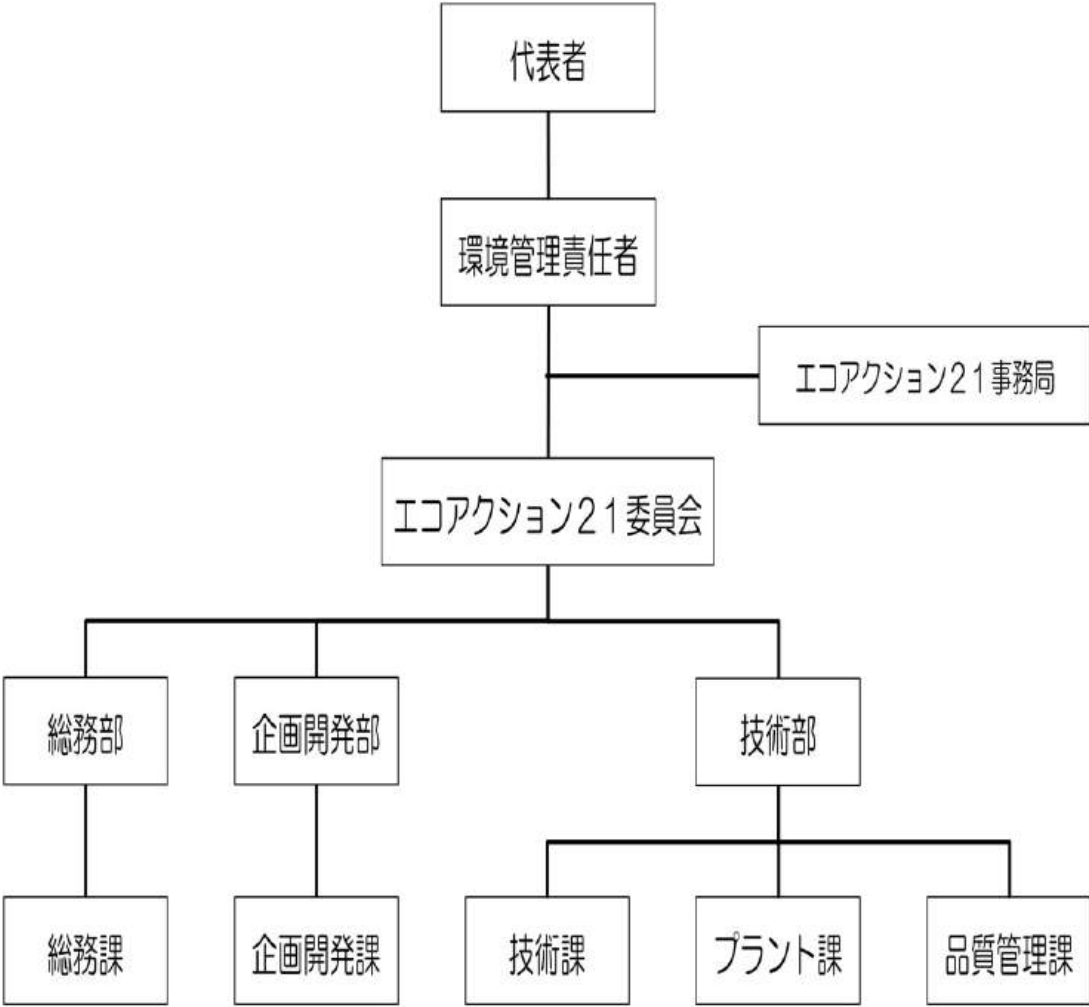
浄化土のリサイクル品

浄化土は建設工事の埋め戻し材料をはじめ、地中配管の周囲の埋め戻し材、芝の目砂、敷き碎石、アスファルト骨材、地盤改良材、路盤材など多くの用途にご利用いただいております。



配管まわりの埋戻し

EA21組織図



	役割・責任・権限
代表者(社長)	・環境経営に関する統括責任 ・環境経営システムの実施に必要な人、設備、費用、時間等経営資源を準備 ・環境管理責任者を任命 ・環境経営方針の策定・見直し ・環境経営目標・環境経営計画書を承認 ・代表者による全体の評価と見直し、指示 ・環境経営レポートの承認
環境管理責任者	・環境経営システムの構築、実施、管理 ・環境関連法規等の取りまとめ表を承認 ・環境経営目標・環境経営計画書を確認 ・環境活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営レポートの確認
EA21事務局	・環境管理責任者の補佐、環境委員会の事務局 ・環境負荷の自己チェック及び環境への取り組みの自己チェックの実施 ・環境経営目標、環境経営計画書原案の作成 ・環境活動の実績集計 ・環境関連法規等取りまとめ表の作成及び最新版管理 ・環境関連法規等取りまとめ表に基づく遵守評価の実施 ・環境経営レポートの作成、公開(事務所に備付けと地域事務局への送付)
EA21委員会	・環境経営計画の審議 ・環境活動実績の確認・評価 ・自部門における環境経営方針の周知 ・自部門の従業員に対する教育・訓練を実施、記録の作成 ・自部門に関連する環境活動計画の実施及び達成状況の報告 ・自部門に必要な手順書の作成及び手順書による実施 ・自部門の想定される事故及び緊急事態への対応のための手順書作成 ・自部門の問題点の発見、是正、予防処置の実施 ・環境関連の外部コミュニケーションの窓口
全従業員	・環境方針の理解と環境への取り組みの重要性を自覚 ・決められたことを守り、自主的・積極的に環境活動へ参加

※ 営業は、総務課に含まれます。

ジオレ・ジャパン 環境経営方針

1. 環境関連法規、地域の条例・協定を遵守し、地域社会と共に事業を展開します。
2. 汚染土壌や廃棄物の適正処理・再資源化により、循環型社会の構築に努めます。
3. 電気、化石燃料の有効活用や社有車・重機類の経済的運転によりCO₂の削減を推進します。
4. 水資源の節約、汚水の適正処理及び漏洩防止により、環境の保全に努めます。
5. 汚染土壌や廃棄物処理に伴う化学物質使用量を把握し、適正な使用及び管理に努めます。
6. 美化活動や場内緑化を推進し、緑豊かで清潔な事業所づくりに取り組みます。
7. 環境経営方針は、全従業員に周知のうえ社内外に公開し、環境経営を継続的に改善してゆきます。

2020年 11月 1日
代表取締役 柴垣雄一

6.環境関連法規の遵守状況

法令遵守状況

各業務に係る法令の遵守事項を各部署にてピックアップし、毎月の月次チェック表を基に実施漏れがないよう心掛けています。

環境関連法規制等の遵守状況の評価の結果、環境法規制等の逸脱はありませんでした。

法律の名称	対象となる事項
土壌汚染対策法	・ 処理後土壌・地下水・排水・排ガス分析 ・ 汚染土壌処理業に係る各種変更・届出・報告等
大気汚染防止法	・ 排ガス分析、一般粉じん発生施設設置・廃止届等
水質汚濁防止法	・ 雨水排水分析
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	・ ばいじん・排ガス分析(熱処理施設に限る) ・ 低濃度PCB大臣認定に基づく各種測定・変更・届出等
ダイオキシン類対策特別措置法	・ 処理後物・ばいじん・排ガス分析(熱処理施設に限る) ・ 法令に係る届出等
PRTR法	・ 第一種指定化学物質の排出量及び移動量の届出
PCB特措法	・ 低濃度PCB廃棄物に係る保管・処分状況の報告
省エネルギー法	・ 省エネルギー法に係る各種報告・変更・届出等

[illegible]

各部署の担当者が、毎月実施すべき
遵守事項を確認し、いつ・誰が実施
したかを記録。

問題があれば、改善し、法令遵守を徹底できる体制を構築しています。

7.環境経営目標とその実績

主な環境負荷の実績

□主な環境負荷の実績

項 目	単位	2021年	2022年	2023年
二酸化炭素総排出量	kg-CO ₂	5,879,247	6,637,455	6,243,401
廃棄物排出量	トン	992	1,159	1,079
一般廃棄物排出量	トン	3	3	3
産業廃棄物排出量	トン	989	1,156	1,077
水使用量	m ³	38,045	37,081	35,066

※二酸化炭素排出係数 0.318 kg-CO₂/kWh 関西電力2019年度の調整後係数

※二酸化炭素総排出量は、活動目標に挙げていない低濃度PCB含有廃油等を含む。

□環境経営目標及びその実績

年 度		基準値	2023年		評 価	2024年	2025年
項 目		(基準年)	(目標)	(実績)		(目標)	(目標)
電力による二酸化炭素削減 ※本社工場・末広工場合算	kg-CO ₂	1,036,316	1,036,316	1,024,711		1,014,464	1,004,217
	基準年度比	2022年	100%	99%	○	99%	98%
都市ガスによる二酸化炭素削減 ※22年より都市ガス切替の為、目標設定なし	kg-CO ₂	3,064,792	3,064,792	3,392,055		3,358,135	3,324,214
	基準年度比	2022年	100%	111%	×	99%	98%
自動車燃料による二酸化炭素削減 (乗用車ガソリン)	kg-CO ₂	7,523	7,523	7,032		6,961	6,891
	基準年度比	2022年	100%	93%	○	99%	98%
重機燃料による二酸化炭素削減 (軽油)	kg-CO ₂	1,256,501	1,256,501	826,064		817,804	809,543
	基準年度比	2022年	100%	66%	○	99%	98%
上記二酸化炭素排出量合計	kg-CO ₂	5,365,132	5,365,132	5,249,863		5,197,364	5,144,865
一般廃棄物の削減	kg	3,025	3,025	2,716		2,689	2,661
	基準年度比	2022年	100%	90%	○	99%	98%
産業廃棄物の削減	kg	1,155,890	1,155,890	1,076,658		1,065,891	1,055,125
	基準年度比	2022年	100%	93%	○	99%	98%
低濃度PCB廃油の処理	kg	435	-	339		-	-
	基準年度比	2022年	-	-		-	-
水使用量の削減 ※上水・工業合算	m ³	37,081	37,081	35,066		34,715	34,365
	基準年度比	2022年	100%	95%	○	99%	98%

評価内容

2023年度は、汚染土壌処理量が前年度比71%と低下したため、二酸化炭素排出量や廃棄物発生量、水使用量についても概ね前年度より減少している。

特に重機燃料による二酸化炭素量の削減量は、前年度比66%と汚染土壌の処理量低下を下回る削減量となっているが、これは浄化土の本社工場から末広工場への横持ち運搬量削減や重機オペレーターの無操作時間短縮など、重機燃料の削減に関するこれまでの取組みが定着してきたものと考えられる。

都市ガスに関しては、代替えの熱源となっているPCB廃油の受入量減少に伴い昨年度よりも処理量が増加している。PCB廃油は2027年に処理期限を迎えるため、今後、新たな取組みを検討する必要がある。

環境経営目標とその実績一覧（1）

目標項目		取組項目	目標値	実績値	評価	中長期目標		
						2024年度	2025年度	2026年度
二酸化炭素排出量の削減	使用電力量の削減	プラント設備における電気・化石燃料の有効活用によりを削減する。	プラント設備にお けCO ₂ 排出量削減 の取組みを行う。	- 都市ガス使用量の把握。 - PCB廃油処理に伴う熱源利用。 - CO₂排出量の削減。	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続
		事務所内の節電により、CO ₂ を削減する。	事務所内の節電を推進する。	節電推進方策の展開 - 節電パトロールの実施。 - 節電啓発活動 - 冷蔵庫内整理整頓。	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続
	社有車・重機の燃料使用量の削減	重機稼働時の低燃費運転を実施し、燃料消費量及びCO ₂ の排出量を削減する。	平均無操作アイドリング割合を23.8%以下に抑制する。 (夏期間の8月～10月は28.1%以下)	平均無操作アイドリング割合 年間平均22.5%	○	基準年より1.5%削減する	基準年より2%削減する	基準年より2.5%削減する
		社有車の経済的運転によりCO ₂ を削減する。	エコカー（アード、リーフ）の使用率の向上。 目標値 エコカー使用率34%又は、エコカー月次走行距離545.5km	エコカー利用率56% 月次走行距離963km	○	エコカー（アード、リーフ）の利用率向上 基準年比1% エコカー年間走行距+300km	エコカー（アード、リーフ）の利用率向上 基準年比2% エコカー年間走行距+300km	エコカー（アード、リーフ）の利用率向上 基準年比3% エコカー年間走行距+300km

7.環境経営目標とその実績

環境経営目標とその実績一覧（2）

目標項目		取組項目	目標値	実績値	評価	中長期目標		
						2023年度	2024年度	2025年度
総排水量の削減	工業用水使用量の削減	水資源の節約、汚水の適正処理及び漏洩防止により、環境の保全に努める。	排水受水送水量(汚水)の管理と水処理、脱水設備を活用し汚水の再利用を行い、水資源を節約する。	工業用水用量 32,377,000 ℓ	○	工業用水使用量 基準年比－1%	工業用水使用量 基準年比－1.5%	工業用水使用量 基準年比－2%
	上水使用量の削減	節水の喚起により上水使用量の削減する。	従事者1人あたりの上水使用量 前年度比 －1.0% 本社：0.1198m3/人・日 末広：0.1941m3/人・日 以下を達成する。	従事者1人あたりの上水使用量 本社0.1014m3/人・日 末広：0.1265m3/人・日	○	従事者1人あたりの上水使用量 基準年比－1%	従事者1人あたりの上水使用量 基準年比－1.5%	従事者1人あたりの上水使用量 基準年比－2%
化学物質使用量	化学物質使用量の把握	汚染土壌や廃棄物処理に伴う化学物質使用量を把握し、適正な使用及び管理に努める。	汚染土壌や廃棄物処理に伴う化学物質使用量の把握。	運転計画書に則り、必要以上に化学物質の使用を行わないよう調整・管理を実施した。	○	適正使用量の遵守。日常的に設備配管等の維持管理を行い、化学物質を漏洩させない。	左記を継続	左記を継続
廃棄物排出量の抑制	産業廃棄物処理の適正管理	排出する産業廃棄物の適正処理を確認する。	施策を確実に実施し、法令違反を防止する事で産業廃棄物の適正管理を行う。	・場内パトロールの実施。 ・処理委託契約の締結確認。 ・マニフェスト伝票の適正管理。 ・現地確認の実施。	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続
	事業系一般廃棄物（排出量）を削減	ゴミの分別等の推進	1カ月当たりのゴミの排出量 173.5kg以下を達成する。	1ヶ月当たりのゴミの排出量 平均166.2kg	○	1カ月当たりのゴミの排出量 基準年比1%削減	1カ月当たりのゴミの排出量 基準年比2%削減	1カ月当たりのゴミの排出量 基準年比3%削減

7.環境経営目標とその実績

環境経営目標とその実績一覧 (3)

目標項目		取組項目	目標値	実績値	評価	中長期目標		
						2023年度	2024年度	2025年度
汚染土壌の浄化	浄化処理（洗浄処理、熱処理、乾式磁力選別（DME）処理、化学脱着処理）の浄化確認調査の頻度が適正であることを確認する。	汚染土壌の適正な浄化処理を推進することにより、土壌環境改善及び循環型社会の構築に努める。	浄化確認頻度 180t/回以下	全ロット 180t/回以下	○	180t/回以下	180t/回以下	180t/回以下
	浄化確認調査の結果が基準値を超過した件数を把握し、当該土壌が適正に再処理されたことを確認する。	汚染土壌の適正な浄化処理を推進することにより、土壌環境改善及び循環型社会の構築に努める。	基準超過回数 0	基準超過回数 0 再処理に該当する土壌の発生はなし。	○	基準超過回数0 基準超過時は適正に再処理を実施する。	基準超過回数0 基準超過時は適正に再処理を実施する。	基準超過回数0 基準超過時は適正に再処理を実施する。
環境活動の実施	花壇整備	季節毎の花の育成	・春の花植付・開花 ・夏の花植付・開花 ・来季春の花種まき	本社屋前花壇及び自転車置き場前花壇 夏の花： ひまわりとマリーゴールド 春の花： ノースポール を開花。	○	左記を継続	左記を継続	左記を継続
	美化活動の実施	場内の美化活動や場内緑化を推進し、緑豊かで清潔な事務所づくりに取り組む。	・1回/月以上の美化清掃実施。 ・課員全員の緑の活動実施。	毎月1回場内清掃を実施し、プラント課員班毎での緑の活動を実施。	○	左記を継続 数値目標の設定はなし。ただし、継続的に環境活動を実施する。各個人の環境意識の向上が目的。	左記を継続	左記を継続

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

二酸化炭素排出量の削減 プラント 電気・LNG使用量調査

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
都市ガス使用量	164,624m ³	113,058m ³	134,622m ³	223,482m ³	84,028m ³	38,000m ³	124,623m ³	190,704m ³	206,055m ³	158,284m ³	64,054m ³	68,862m ³	1,570,396m ³
PCB廃油処理量	50.26kL	24.55kL	55.89kL	20.66kL	0.00kL	12.19kL	44.94kL	41.40kL	40.31kL	11.00kL	5.70kL	58.81kL	365.70kL
PCB廃油 GJ換算	1,975.33GJ	964.97GJ	2,196.49GJ	811.96GJ	0.00GJ	478.91GJ	1,766.36GJ	1,627.10GJ	1,584.46GJ	432.22GJ	223.95GJ	2,311.25GJ	14,372.99GJ
都市ガス削減量	44,092m ³	21,539m ³	49,029m ³	18,124m ³	0m ³	10,690m ³	39,428m ³	36,319m ³	35,367m ³	9,648m ³	4,999m ³	51,590m ³	320,826m ³
エネルギー起源 CO ₂ 削減量	98.33 t	48.03 t	109.33 t	40.42 t	0.00 t	23.84 t	87.92 t	80.99 t	78.87 t	21.51 t	11.15 t	115.05 t	715.44 t

CO₂削減量 前年945.28t
前年比75.7%

実施内容

評価

①都市ガスの使用量を把握。

○

②PCB廃油処理で生じる熱を利用し、都市ガス（化石燃料）の使用量を削減しエネルギー起源CO₂排出を削減する。

○

担当者のコメント

PCB廃油処理で生じる熱を利用し、都市ガス（化石燃料）の使用量を削減することで、エネルギー起源CO₂排出を削減する。

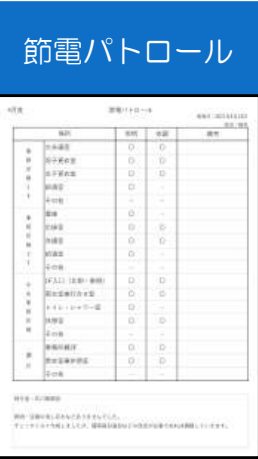
上記の差により、化石燃料の削減及びエネルギー起源のCO₂削減量を求めた結果715.44 tのCO₂が削減された。引き続きPCB廃油処理で生じる熱を利用し、化石燃料の削減及びエネルギー起源のCO₂削減を行う。

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

二酸化炭素排出量の削減 事務所内の節電を推進

実施内容	評価
①節電パトロール(エアコンの切り忘れがないかなど)を実施する。	○
②節電の推進啓発活動を行う。	○
③冷蔵庫の中が整理整頓されて清潔に保たれているか、長期間放置されているものがないかのチェックして、問題があれば、対処するとともに、再発防止策を講じる。	○

担当者のコメント
節電パトロールにより、電気の消し忘れなど無駄な電力消費を削減する取り組みやステッカーなどで節電を啓発する取り組みを行った。 また月一の節電パトロールでは、稀にある消し忘れを見つけるのは難しいため、抜き打ちで見回りも行い、問題あればその都度、対応している。 定期的に冷蔵庫内の放置物を確認して、冷蔵庫内を清潔に保つとともに、結果を周知して従業員の意識向上をはかった。 今後については、節電パトロールについては、今後は電力ひっ迫の案内がある日に実施し、無駄な電力消費の削減に努め、啓発活動は社内の従業員に節電活動のインタビューを行い、良い取り組み事例を水平展開する活動を行っていく。



8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

二酸化炭素排出量の削減 重機類の燃料使用量削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
総稼働時間	2,440h	1,531h	1,690h	1,778h	1,269h	1,162h	1,621h	2,045h	1,919h	1,332h	1,297h	1,508h	19,592h
総無操作時間	653h	354h	359h	414h	357h	276h	352h	388h	390h	311h	257h	303h	4,414h
平均無操作 アイドリング	26.8%	23.1%	21.2%	23.3%	28.1%	23.8%	21.7%	19.0%	20.3%	23.3%	19.8%	20.1%	22.5%



担当者のコメント

メーカーからの稼働データを基に、重機の稼働状況を確認し、無操作割合の大きい重機については個別に指導を実施した。
場内パトロール時に各重機の運転状況を確認し、不適切な使用の重機を発見した場合は、その都度指導を実施した。
定例の安全会議（株津川主催）や日々の打ち合わせの中で、無操作運転に関する周知を行った。
毎月の取組み結果を株津川へ開示し、各重機オペレーターの意識向上に努めた。
尚、今期は重機の故障が多く発生し、修理時にエンジンを稼働する必要があったため、やむを得ない無操作アイドリングがあったが、地道な活動のおかげで目標を達成することができた。

引き続き無操作アイドリングの削減の取組みを継続実施していくが、重機オペレーターとのコミュニケーションを強化し、活動の維持向上に努めていく。

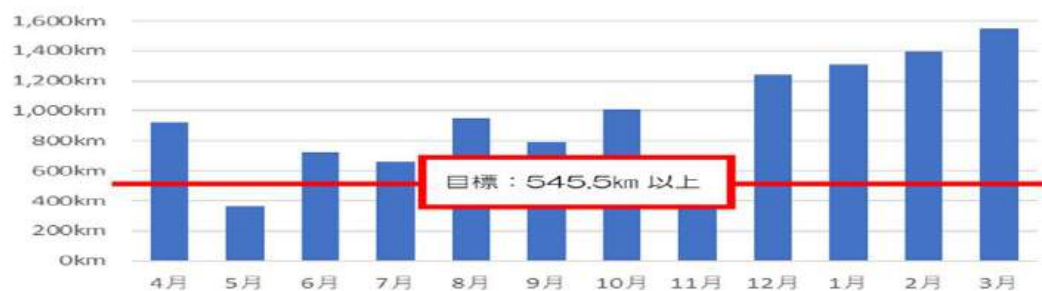
実施内容	評価
①メーカーから入手する資料を基に、重機の稼働状況を確認し、無駄なアイドリングを削減する。	○
②無操作時間の多い重機をピックアップし、当該重機のオペレーターにヒアリングを行い、オペレーターの意識向上及び無操作時間の削減に努める。	○
③メーカーよりデータの提供を受けた後に、重機オペレータと個別又は班分けし少人数にてEA21説明会を開催し、理解を深める。	○
④取組み結果を掲示し、オペレーターの意識向上を図る。	○

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

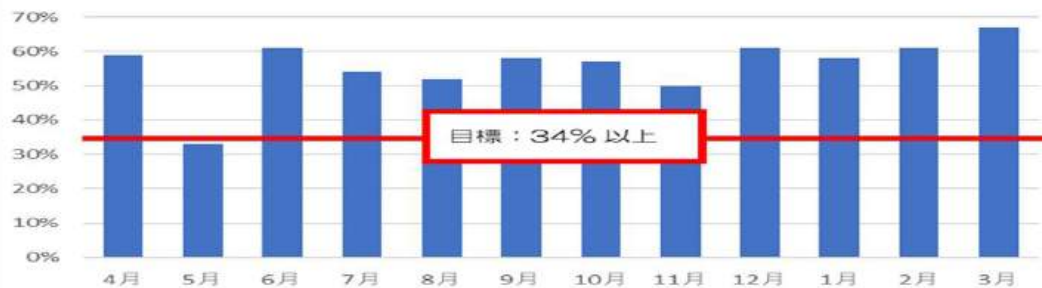
二酸化炭素排出量の削減 社有車の経済的運転

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
エコカー走行距離	924km	365km	721km	661km	951km	790km	1006km	648km	1242km	1310km	1394km	1549km	963km
エコカー利用率	59%	33%	61%	54%	52%	58%	57%	50%	61%	58%	61%	67%	56%

エコカー走行距離



エコカー利用率



実施内容

- ①エコ車（アード、リーフ）利用率の見える化する。
- ②エコ運転啓発活動を行う。

評価

○

○

担当者のコメント

利用の際はエコカー（アード、リーフ）利用の声掛けをし、エコカーを利用する意識作りに努め、使用率の向上に繋げることができた。
また毎月使用状況の報告を行う際に、エコに関するクイズを出すことで社内コミュニケーションの活性化にも繋げた。

引き続きエコカー利用の推進と社員個人の不要物を引き取り、エコクイズの景品として再利用し、社内だけでなく従業員の家庭内の一般廃棄物削減にも繋げていく。

エコ運転啓発活動



8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

工業用水使用量の削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
工業用水 使用量	2,348m ³	1,411m ³	2,725m ³	2,941m ³	2,422m ³	1,696m ³	2,549m ³	3,848m ³	3,567m ³	3,545m ³	2,925m ³	2,400m ³	32,377m ³
排水受水 送水量 (汚水量)	28,671m ³	20,116m ³	48,572m ³	56,645m ³	49,443m ³	31,381m ³	70,735m ³	69,044m ³	71,469m ³	43,806m ³	71,031m ³	61,815m ³	622,728m ³
脱水ケー キ量	399.80 t	464.66 t	3,381.47 t	4,094.76 t	4,412.62 t	1,694.70 t	3,302.37 t	2,931.20 t	4,809.35 t	3,114.48 t	2,078.15 t	3,201.18 t	33,884.74 t
再処理水 使用量	28,433m ³	19,839m ³	46,559m ³	54,208m ³	46,816m ³	30,372m ³	68,769m ³	67,299m ³	68,606m ³	41,952m ³	69,794m ³	59,324m ³	601,973m ³

工業用水使用量 前年34,503m³
前年比93.8%にDOWN!!

担当者のコメント

洗浄処理後水、雨水、タイヤ洗浄水等の汚水を水処理し、再利用すると同時に排水受水送水量(汚水)の管理を行った。水処理設備及び脱水設備を使用し、汚水内の不純物を取り除き、洗浄用水として再利用を行うことで、工業用水の使用量を抑えた。

また、設備・配管類の管理により、漏洩防止、環境保全に努めた

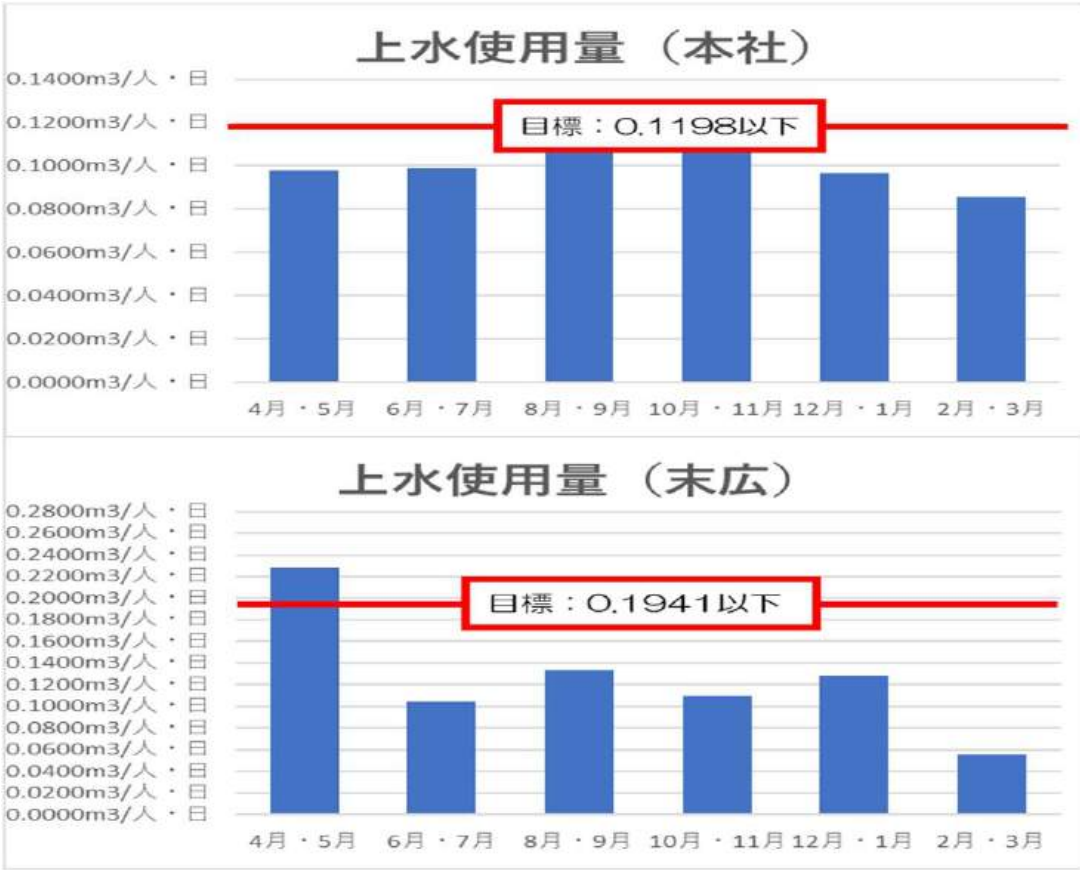
引き続き、泥水処理をし、再利用する事で、水資源の節約に貢献する。

実施内容	評価
①洗浄処理後水、雨水、タイヤ洗浄水等の汚水を水処理し、再利用。排水受水送水量(汚水)の管理。	○
②水処理設備及び脱水設備を使用し、汚水内の不純物を取り除き、洗浄用水として再利用。	○
③設備、配管類の管理により、漏洩防止、環境保全に努める。	○

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

上水使用量の削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年平均
上水使用量 (本社)	-	0.0980m3/ 人・日	-	0.0990m3/ 人・日	-	0.1151m3/ 人・日	-	0.1140m3/ 人・日	-	0.0965m3/ 人・日	-	0.0856m3/ 人・日	0.1014m3/ 人・日
上水使用量 (末広)	0.2281m3/ 人・日	-	0.1043m3/ 人・日	-	0.1336m3/ 人・日	-	0.1095m3/ 人・日	-	0.1283m3/ 人・日	-	0.0552m3/ 人・日	-	0.1265m3/ 人・日



実施内容	評価
①上水使用量の確認・記録。	○
担当者のコメント	
日々の上水使用量を把握・分析し、使用量が増加する傾向の把握に努めた。 本社工場では花壇の散水に上水を用いているため、夏場に向かうほど上水使用量が増加する傾向にあった。これを2023年11月に工業用水に切替する工事を自社施工した。2024年に効果が表れてくるものと期待している。 本社工場では上水使用量の削減に対して、効果的な対策に繋がる取り組みが実施できたが末広工場の上水使用量を削減できる具体的な取り組みは、まだできていない。 末広工場は工業用水がきていないため、本社工場のように工業用水に切り替える手段は使うことが出来ないため、雨水など別の水資源を流用できるか検討していく。	

8.環境経営活動計画の取り組み結果とその評価

化学物質使用量の把握

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
塩化鉄 使用量	59,618kg	31,411kg	43,343kg	57,337kg	20,307kg	9,692kg	30,356kg	53,835kg	57,622kg	28,752kg	15,538kg	24,317kg	432,126kg

実施内容	評価
①焼成設備にて使用している、薬剤が運転計画指示書通りに添加されているか、余剰添加を行っていないかを管理する。	○
②薬剤タンク・配管等から漏れがないかを日常点検により、確認する。	○

担当者のコメント
汚染土壌や廃棄物処理に伴う化学物質使用量を把握し、適正な使用及び管理ができた。 次年度も引き続き使用量の把握、保管方法の確認、設備配管の点検により、化学物質の適正な使用及び管理に努める。

産業廃棄物処理の適正管理

実施内容	評価
①場内パトロールを実施し、産業廃棄物の保管状況を確認し、適正な保管状況を継続させる。	○
②処理委託契約の締結状況を確認する。	○
③産業廃棄物を排出する際は、産業廃棄物管理票を確実に発行し、その後の返却状況までの管理を適正に行う。	○
④排出先処理施設の現地確認を実施する。	○
⑤行政報告の実施。	○

担当者のコメント
場内パトロール時に、産業廃棄物の保管状況を確認し、不適切な場合は早急に是正を行った。 産業廃棄物の処理委託契約の締結状況を確認し、契約内容や契約期限等に不備が無いかのチェックを行った。 産業廃棄物排出時の管理票の発行及び発行後の返却状況を確認し、不適切な運用の防止に努めた。 排出先の現地確認を実施し、当社から排出した産業廃棄物が、適正に処理が行われている事を確認した。

事業系一般廃棄物(排出量)の削減

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
ゴミ排出量	156.83kg	167.11kg	173.50kg	183.14kg	161.58kg	172.55kg	159.35kg	160.16kg	181.44kg	163.44kg	143.14kg	172.20kg	166.20kg
コピー用紙使用量 (A4)	40冊	40冊	40冊	30冊	30冊	35冊	25冊	40冊	40冊	40冊	30冊	40冊	36冊
コピー用紙使用量 (A3)	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	6冊	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊	3冊



実施内容	評価
①コピー用紙の使用削減の推進。	○
②毎月のコピー用紙の使用量を記録する。	○
③ゴミ削減の啓発活動を行う。	○
④ゴミの排出量の記録する。	○

担当者のコメント

排出記録だけでなく、異常値を把握できるように、原単位も計算・記録したことからゴミ量に異常を感じた場合は、原因を追究していくことができた。
コピー用紙の使用量の削減については、啓発活動を行い、不要な紙出力を抑えるよう周知している。

引き続きおかしな物が捨てられないように、日々のゴミ排出記録についても確認し、異常なゴミ量が出ている場合は、確認し、妥当な理由でなければ再発防止に努めていく。また会社で定期購読している新聞を電子新聞に変更することで、紙資源の節約等に繋げていく。

2023年度実績
アルミ缶 18.00kg
シュレッダー紙 700kg
をリサイクル資源として回収することができた。

廃棄物啓発活動

EA21 (2月度) ゴミ排出量について

取り組み結果

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
ゴミ排出量 (kg)	156.83	167.11	173.50	183.14	161.58	172.55	159.35	160.16	181.44	163.44	143.14	172.20

達成率

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
達成率 (%)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

コメント

2月度 目標達成★
ぎりぎりでしたが、2月度目標を達成できました！
一人が一日に出すゴミは平均890gもあるそうです。
少しでもゴミを減らせる様に引き続き協力宜しくお願い致します。

EA21 (3月度) コピー用紙使用削減

取り組み結果

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
コピー用紙使用量 (A4)	40冊	40冊	40冊	30冊	30冊	35冊	25冊	40冊	40冊	40冊	30冊	40冊

達成率

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
達成率 (%)	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

コメント

コピー用紙の使用量を削減するために、紙資源の節約等に繋げていく。

8.環境経営活動計画の取組み結果とその評価

浄化確認調査

実績	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年計
処理後土壌発生量(t)	10,642 t	8,376 t	14,829 t	13,382 t	10,992 t	9,541 t	13,343 t	15,636 t	15,755 t	7,168 t	10,874 t	11,572 t	142,111 t
浄化確認調査回数	103回	82回	133回	114回	92回	86回	104回	130回	136回	61回	89回	103回	1,233回
土量/回数(t/回)	103 t/回	102 t/回	111 t/回	117 t/回	119 t/回	111 t/回	128 t/回	120 t/回	116 t/回	118 t/回	122 t/回	112 t/回	115 t/回
基準値超過回数	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回	0回
適正な再処理	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

実施内容	評価
①浄化処理（洗浄処理、熱処理、乾式磁力選別（DME）処理、化学脱着処理）の浄化確認調査の頻度が適正であることを確認する。	○
②浄化確認調査の結果が基準値を超過した件数を把握し、当該土壌を適正に再処理されたことを確認する。	○

担当者のコメント
浄化処理（洗浄処理、熱処理、乾式磁力選別（DME）処理、化学脱着処理）の浄化確認調査し、全て100m³=180t以内に1回の頻度で適正処理することができた。 教育等を通じて認識を高め、引き続き適正な浄化確認調査の頻度を維持する。 また、極力基準超過とならないよう原土壌の汚染状態および処理状況を監視し、状況に応じ、薬品添加量の調整等を実施する。基準超過が発生した場合は、適正に再処理を実施し、最終的に再処理が完了できたことを確認していく。

環境活動の実施

実施内容	評価
① 花壇の整備活動 (種まき、耕作、施肥、植付、水やり、伐根)	○
② 清掃活動を通じて、作業環境及び周辺地域の美化に努める。	○
③ プラント設備周辺にプランターを設置。緑の活動を通じて、作業環境の改善を図る。	○

担当者のコメント

今年も美しい花を咲かせるための花壇整備活動を実施することができた。自動散水装置により水やりの負担も軽減され、植え替えの時期以外はほとんど手がかからない環境を整備することができた。

毎月、構内の清掃活動を行い、班毎にプランターを設置し、緑の活動をプラント課員全員で取り組み、環境に配慮した活動ができた。

今後は内部コミュニケーションにも重点を置き課内での環境負荷軽減に対する意識向上に繋げて行く。

構内清掃活動



みどりの活動



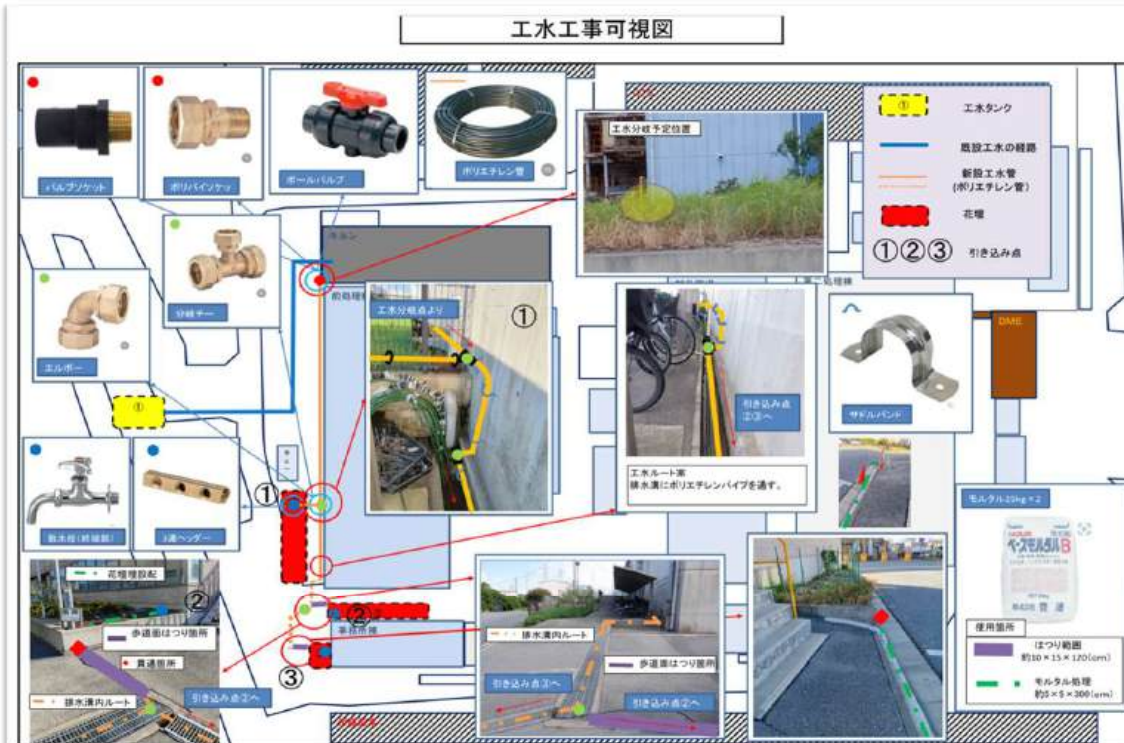
環境活動における工水利用の取組み

担当者のコメント

花壇整備の際、花への散水をホースでの人力と直接地面に設置する所々に穴があいたチューブホースを何本も敷設した自動散水の2パターンで対応していますが、時期によって（特に夏季）利用量が大幅に増加し、上水料金がかかることから、工業用水での散水に切り替えを行い、コストを抑えることにした。

施工計画図面を作成（右図参照）し、工事個所の部材接続の順序を記載したフローにしてまとめることで、自社内で工事が完結できるようにし、最小限の費用で工水管を花壇へ延長を行った。

今後の対応として、設備の点検と上水、工水の毎月の使用量を記録して効果を確認する。
特に、使用頻度が多い夏場は注目していきたい。



環境活動

ジオレ・ジャパンでは、CO₂排出量を抑制すべく様々な取組みを行っています。
化石燃料使用量や電気使用量等の記録保管はもちろんのこと、それらのデータを参照し、削減に向けて、従業員が個々でも実践しています。

一人一人が意識をしっかりと持つことで、少しでも多くのCO₂排出量が削減できるよう取組んでいます。



節電

節電を実施することで、CO₂排出量を抑制しています。
電源近くに節電ステッカーの掲示や毎月、電気やエアコンの切り忘れがないかパトロールを行い、従業員の節電に対する意識を高めています。



エコドライブ推進

社有車や重機のエコドライブを推進することで、化石燃料の使用量を削減し、CO₂排出量の抑制に繋がっています。
運転日報に啓発ステッカーを貼付することで、従業員にゆとりを持った運転を心掛けるようにしています。



節水

蛇口の閉め忘れを防止するために、掲示をしています。
水道は私生活や職場生活で必要不可欠ですが、抑制できるところは抑制することで、必要最低限の資源の活用に繋がっています。



みどりの活動

みどりの活動では、従業員が花を育てています。四季に応じた植物を花壇に植え、成長の過程をみんなで眺めています。
この活動を通して、緑の大切さを学び、環境への意識を高めています。

美化活動

ジオレ・ジャパンでは、月に1回プラント課員による施設内の清掃活動と年2回、本社・末広工場周辺の清掃活動を実施し、作業場及び周辺の美化に努めています。

美化活動を通じて、地域の方々との交流や従業員の環境保全に対する意識づけを行い、環境改善を推進しております。

冷却装置下



PCBタンク



本社工場前構外清掃



油水分離槽



プラント用水水槽



末広工場前構外清掃



教育・訓練

ジオレ・ジャパンでは年間計画に基づき計33項目の教育・訓練を実施しています。

教育講習では、従業員が講師を務めることで、教える側は資料集めやテキスト作成を行い知識が豊富になり、受ける側は身近な人が講師を務めるおかげで内容が入りやすく、また気軽に質疑応答もできるため、両者の育成に繋がっています。

訓練では作業手順書や防災道具を使用した内容となっており、緊急時に迅速に対応できるようになっています。

	部署	教育項目
1	総務課	庄下川水路流出油対策訓練
2	総務課	エコアクション活動周知（EA21認識教育）
3	総務課	消防訓練
4	総務課	入社時説明
5	総務課	新入社員に対する自己申告シートの説明会
6	プラント課	地震・津波・台風被害を想定した避難訓練
7	プラント課	停電時の対応訓練
8	プラント課	PCB廃油の漏洩時緊急対応訓練
9	プラント課	薬剤・薬液の取扱いに関わる教育
10	プラント課	汚染土壌の流出に関する、緊急時対応訓練
11	プラント課	洗浄用水の流出に関する、緊急時対応訓練
12	プラント課	排ガス濃度の維持管理に関する、設備教育
13	プラント課	電気保安教育
14	プラント課	グラウンドパッキン入替実施教育
15	プラント課	磨鋤機・砂利洗浄機共通受けローラー・ローラー軸受け更新教育
16	プラント課	ゴミ取り機本体チェーン更新教育

	部署	教育項目
17	プラント課	土壌投入業務配置時重機教育
18	技術課	重機・土壌運搬車両の油類漏洩時の対応訓練
19	技術課	車両運搬中における汚染土壌流出時の対応訓練
20	技術課	重機・車両の燃費使用量削減による二酸化炭素の排出量を削減する取り組みについて
21	技術課	土排出する産業廃棄物の処理を適正に管理する取り組みについて
22	技術課	2023年度 環境ラリーやその他関連する取り組みについての説明
23	技術課	土壌運搬に関する新規入場教育
24	企画開発課	土壌汚染対策法に係る周知説明会
25	企画開発課	土壌汚染調査技術管理者試験対策講習
26	企画開発課	土壌汚染調査・対策・処理等に係る各種勉強会
27	品質管理課	土壌汚染対策法に基づく浄化確認調査に係る教育
28	品質管理課	各法令等に基づく環境測定等の実施および官公庁への結果の報告に係る教育
29	品質管理課	省エネ法等に基づく定期報告内容等に係る教育
30	品質管理課	汚染土壌の処理技術に係る教育
31	品質管理課	分析室内作業における使用薬品および関連法令に係る教育
32	品質管理課	廃棄物処理法に係る周知説明会
33	品質管理課	危険予知トレーニング（KYT）

教育・訓練

講習 (2023年4月～2024年3月の期間中に実施)



土壌汚染対策や廃棄物に関する講習や緊急時の対応、様々な講習会を計画的に実施しています。
全従業員が各講習で得た知識を現場で活かそうと真剣に聴講している姿が見られます。

避難訓練 (2023年10月19日に実施)



地震や火災といった災害時に迅速に避難が行えるように、避難訓練を実施しています。また、海が近いことから津波を想定した訓練も行い、緊急事態に備えています。

消防訓練 (2024年3月25日に実施)



場内での火災を想定し、訓練用の水消火器で消火訓練を実施しています。
一人一人が実際に訓練を受けることで防災意識を高め、火災発生時の初期消火の要領を学ぶことができます。

緊急時対応訓練 (2024年2月16日に実施)



現場（プラント）では災害や停電、高圧ガス漏れやPCB廃油漏洩等の緊急事態が発生した際の二次災害を防ぐことを目的とした緊急時対応訓練を実施しています。

10.大栄環境グループの取組み

グループの概要/廃棄物処理・リサイクル事業拠点

大栄環境グループの概要

(2024年7月17日時点。ただし従事者数は除く)

組織構成

連結子会社 36社

大栄環境(株)

三重中央開発株	DINS関西株	株共同土木	株ジオレ・ジャパン	株セーフティーアイランド
株摂津清運	京都かんきょう株	株神戸ポートリサイクル	大栄アメット株	株クリーンステージ
株摂津	株東北エコクリーン	株クリエイトナビ	株ブラファクトリー	近江八幡エコサービス株
三基開発株	株ソフトウェア トータルサービス	株グリーンアローズ関西	株丸与	株総合農林
株ディンズ環境 分析センター	株大栄環境総研	資源循環システムズ株	DINSみらい株	株芦屋浄水
株アイエスビー・ジャパン	DINS北海道株	忠岡エコサービス株	ディーデザイン株	アイナックフットボールクラブ株
株和利リサイクル株	株浦安清運	株アイア	株グローバル・ エンバイロメンタル・テクノロジー	農事組合法人ねぎぼーず
農事組合法人嶺の里				

2024年6月末時点

従業員数※

(臨時雇用者含む) 2,633 人

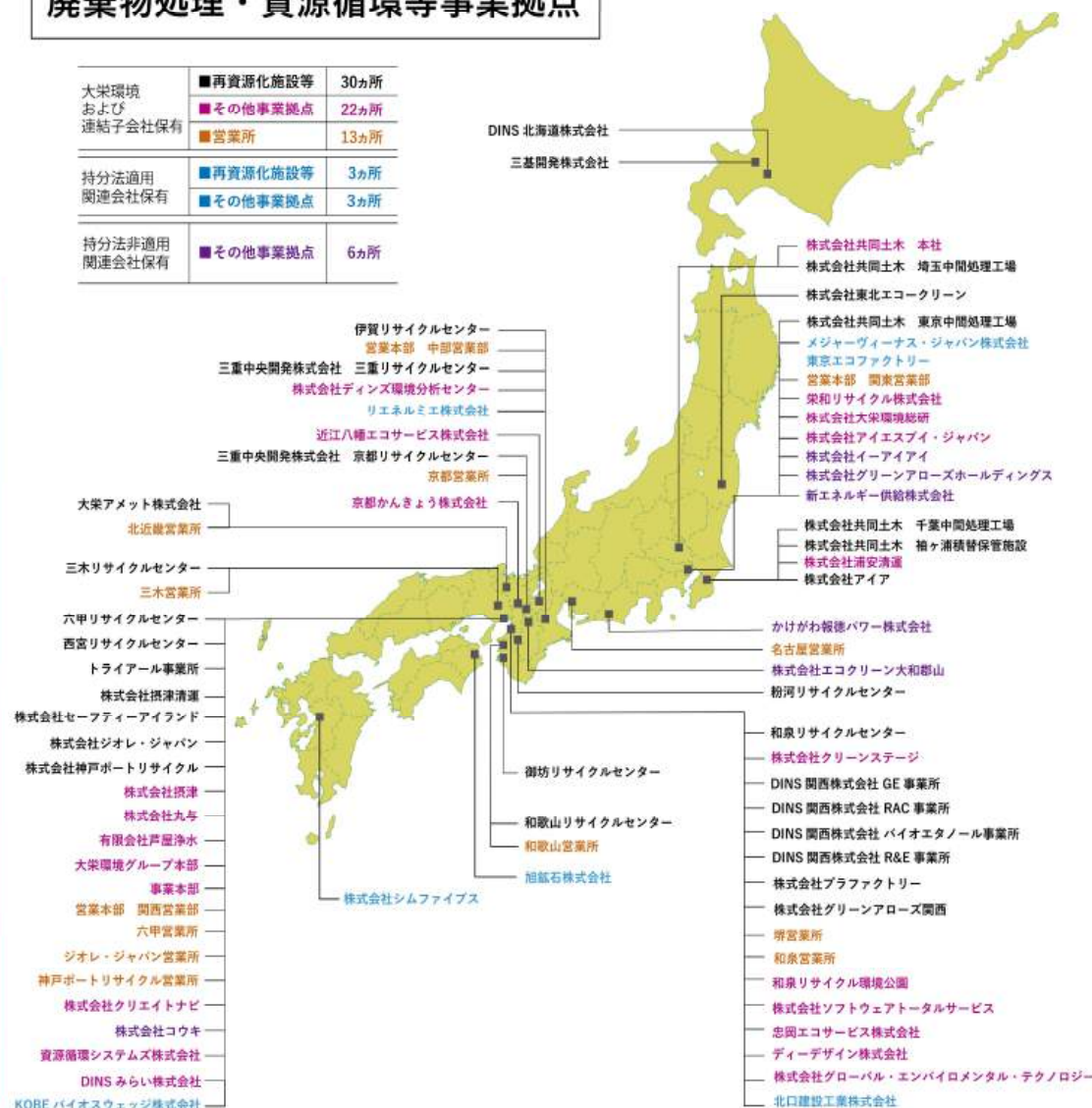
専属協力会社

従事者数 702 人

合計従事者数 3,335 人

廃棄物処理・資源循環等事業拠点

大栄環境 および 連結子会社保有	■再資源化施設等	30ヵ所
	■その他事業拠点	22ヵ所
	■営業所	13ヵ所
持分法適用 関連会社保有	■再資源化施設等	3ヵ所
	■その他事業拠点	3ヵ所
持分法非適用 関連会社保有	■その他事業拠点	6ヵ所



10.大栄環境グループの取組み

環境ラリー

大栄環境グループでは、全員参加型の環境活動で、環境に関する様々な取組目標を設定し、実施状況をポイント化することにより、誰でも無理なく取組める環境活動となっております。

また、取組項目はSDGsの17個の目標を組み合わせたものとなっており、環境ラリーに取組むことで、環境に興味・関心を持ち、自発的に環境活動に参加してもらうことを狙いとしています。

【2023年度実績】

(前年比)			(前年比)		
4月	12.5点	96.2%	10月	12.8点	102.4%
5月	12.7点	105.0%	11月	12.8点	101.6%
6月	12.6点	102.4%	12月	12.7点	100.8%
7月	12.8点	102.4%	1月	12.8点	101.6%
8月	12.7点	101.6%	2月	12.8点	101.6%
9月	12.8点	102.4%	3月	12.9点	102.4%

環境ラリー 2020→2030 目標：統一項目8点以上			
	項目	備考	点数
1	環境川柳の提出	提出首数に関わらず	1点
2	支援に繋がる寄付・募金を行う ～できることから始めよう～	点数、金額、回数に関わらず	1点
3	食品ロスの撲滅 エシカル消費の促進	①消費期限の近づいた値引き商品を購入 or ②「認証マーク」付や「エシカル商品」の購入	1点
4	自分の健康増進を進めている	私は健康のために 【 】 します	1点
5	環境クイズに答える (環境レターに掲載)	毎月出されるクイズに回答 答え	1点
6	ジェンダー平等を自分事に	男女の別なく、家事/育児を分担する習慣がある	1点
7	海や川を汚さない	汚れた水(液体)を流さない 回数に関わらず	1点
8	公私問わず、「脱化石燃料車」の習慣化	公共交通機関の利用、自転車、徒歩等 ノーマイカーデーの習慣がある	1点
9	終業時刻より15分以内に退社した日が 「()日以上」ある	～好きなことをして過ごそう～ 最低2日以上設定	1点
10	大栄環境Gr. で働くことが「GOAL 9」に繋 がっている認識をする(全員 1点)	私の業務内容は 【 】 です	1点
11	回収物 (ペットボトルキャップおよびアルミ缶) の提出	ペットボトルキャップ(2個以上) アルミ缶(2個以上)	1点 1点
12	防災で取り残さない	防災チェックを行う ローリングストック、避難経路、緊急持ち出し袋な どを確認	1点
13	プラスチック製品を断る または 詰め替え用品の使用	回数に関わらず	1点
14	自然とふれあう	山に登る、海や川で遊ぶ、動物園や植物園に出 かける…近所の公園散歩もOK 回数に関わらず	1点
グループ統一項目 合計得点記入欄(No.1～No.14までの合計点)			
15	ブルタブの回収運動で車椅子を提供	ブルタブ(アルミ・スチール) 回数に関わらず	1点
16	マイボトルの持参でペットボトル製品の 利用を控える	回数に関わらず	1点
17	マイ箸の利用でゴミの削減に繋げる	回数に関わらず	1点
全項目 合計点数記入欄(No.1～No.17までの合計点)			

環境レター

大栄環境グループの各事業所が持ち回りで環境レターを作成し、グループの全従業員に内容を周知することにより、グループ全体の環境への意識向上を目指しております。

また、毎月環境クイズを出題し、従業員一人一人が考えることで、環境への知識向上も目指しております。

ペットボトルキャップ・アルミ缶の提出

環境ラリーの取り組み項目のひとつとして、ペットボトルキャップとアルミ缶の回収を積極的に行っています。ペットボトルキャップは原材料として購入することで世界の子供達にワクチンを届けることに繋げております。アルミ缶は回収した金額を全額寄付することで地域の発展に役立てています。

【2023年度回収実績】

アルミ缶	18.00kg
ペットボトルキャップ	4.50kg



環境レター5月

リサイクル月間

No.296
発行日: 2023/5/1
原稿: ジオレ・ジャパン

関西と関東のリサイクル事情

同じ日本なのにここまで違うかとよく比較される関西と関東。実はゴミのリサイクルにもこんな違いがあり、ちょうど今月の事業所関連行事がリサイクル月間という事もあるので、紹介します。

環境省の『一般廃棄物処理実態調査』(2015(平成27)年度)によると、京都府はゴミの排出量が全国で一番少なく、大阪も4番目に少ないのだそう。ところが、リサイクル率は京都39位、大阪に至っては46位と極端に悪いんです。

関西人ではリサイクルの意識が低い?と思ってしまうそうですが、ちょっと違う理由があるのだそうです。一体その理由とは・・・?

関西人はゴミとしてリサイクルに出してしまうのさえ、もったいないと考える人が多いのだとか!ゴミに出すくらいなら自ら売って、リサイクルするスタイルがあっているようです。

今ではWEBサイトやスマホアプリを利用すれば、個人間の物の売買や交換も便利になったが、大阪ではネットのない時代から情報誌を使って不用品を売買してきた歴史がある。

不用品を売り買いする文化の下地は、40年以上前にできていたといえる。日本で初めてフリーマーケットが催されたのはそもそも大阪だ。市民が不要になった物を持ち寄って売り買いするスタイルは、商人の町・大阪の人々の気性にあったようだ。

つまり、関西の方がごみのリサイクル率が悪いという結果は、そもそもゴミとみなされるものが少ないからと考えられなくもない。

(『関東と関西 ここまで違う! おもしろ雑学』(ライフサイエンス 著 三笠書房) から出典)

5月の環境クイズ

先程は日本国内のお話でしたが、世界全体ではリサイクル率はどれくらい進んでいるのでしょうか?

A:約16% B:約36% C:約56%

白谷くんの防災コーナー

事業部環境課の白谷です。

皆さん、「**非常食や飲料水**」の確保、備蓄は大丈夫ですか?大人はもちろん、小さいお子様や赤ちゃんのいらっしゃるご家庭は、そのライフスタイルに応じて、選ぶ商品ももちろん変わってきますよね。最近では、火を通さなくても食べられるものもありますし、レトルトの離乳食ではこんなメニューもあるのかとびっくりすることもある。

ただし、それらを「非常持出袋」につめてこんでいるだけでは対策にならないことも皆さんご承知の通りですね。非常食と言えども「消費期限」はあります。

何を用意しておくのか、消費期限に余裕はあるか、定期的にチェックする習慣を作っておくことが一番重要ですね。

4月の環境クイズ(答え)

C. アースデイ

様々な記念日がニュースやカーナビのお知らせで話題に取り上げられるようになってきています。アナタも数ある記念日の中から自然や環境に関する日を意識し、少しずつ地球にやさしい行動を増やしてみませんか?

代表者による全体評価と見直し結果

平素は、皆様方からの格別のご高配を賜り、誠にありがとうございます。

昨年は、二酸化炭素排出量や廃棄物発生量、水使用量についても概ね前年度より減少し、特に重機燃料による二酸化炭素量は、前年度比66%と大幅な削減量となりました。

浄化土の本社工場から末広工場への横持ち運搬量削減が大きな要因であり、加えて重機オペレーターの無操作時間短縮など、重機燃料の削減に関するこれまでの取り組みが定着してきたものと考えられます。

今後は、次世代のリーダー育成や協力会社を交えた活動の拡大など、現在の取り組みに留まらず、新たな観点から施策の掘り下げを行い活動の裾野を広げていきたいと考えております。

引き続き従業員が一体となり、すべての方々により良いご報告ができるよう、環境経営活動を推進してまいります。

代表取締役
柴垣 雄一



美しい地球を未来へ

株式会社ジオレ・ジャパン

兵庫県尼崎市東浜町1-1

TEL 06-6411-3690

FAX 06-6411-3225